

ルーテル学院大学・大学院・総合人間学研究科
社会福祉学専攻・博士後期課程
博士論文審査結果の概要

社会福祉学専攻
主任教授 前田 大作

博士論文提出者： 04G-D003 小高真美

論文タイトル： 地域で生活する精神障害者のニーズと生活の質に関する研究

< 審査結果の概要 >

1. 審査委員会

上記論文が、博士(社会福祉学)の学位請求論文として、2006年12月1日に提出されたので、社会福祉学専攻教授会は、その審査のため、本学学位規定第6条の規定により、下記4名の審査委員で組織する審査委員会を設けた。

主査	教授	前田 大作
副査	教授	増野 肇
委員	教授	石川 久展
外部審査委員	医学博士	安西 信雄

(国立精神保健センター武蔵病院リハビリテーション部部長)

2. 書面審査

書面審査は、提出直後から最終試験(口述試験)が行われた2007年2月3日までの約2ヶ月にわたって上記4名の審査委員によって個別に行われ、あらかじめ専攻教授会で決定していた「博士論文評価票」によってそれぞれ評価を行った。また安西委員を除く他の3名の委員は、評価票の特記事項欄、または別紙を用いて総合的な講評を記述された。

書面審査による評価は、全委員が評価票の全項目について「優」、もしくは「優プラス」であり、また総合評価も全委員が「優」、もしくは「優+」であった。

審査委員4名が全員参加して行われた2月3日の判定審査委員会は、全員一致で学位申請を承認し、またその評価を「優」とすることに決定した。

3. 最終試験(口述試験)

最終試験(口述試験)は、上記4名の審査委員会委員に加えて、社会福祉学専攻所属の以下の教員が参加して、合計8名の試験委員によって行われた。

教授 市川一宏(学長)

教授 江藤直純(キリスト教学科教授、日本ルーテル神学校長)

教授 平山佳須美

教授 福山和女

口述試験は、学会発表の形式を取って行われた。すなわち、学位請求者は、論文の内容について、学会での講演と同様に、パワーポイントを使って発表し、終了後、試験委員の質問に回答した。また一部の委員は質問とあわせてコメントを行った。いずれの質問、コメントも、論文についての重大な問題点を指摘するものではなく、細部についての疑問をただすような内容か、もしくは論文の内容をよりよくするための修正、加筆の提案であった。

各教員の評価は、あらかじめ社会福祉学専攻教授会が決定していた口述試験評価票によって行われた。評価の結果は、全試験委員が、全項目について、「優」または「優+」の評価であり、また総合評価も、全員が「優」、または「優+」であった。

試験委員全員による最終試験の判定合議は、上記審査委員会による判定結果が専攻主任から報告された後、口述試験についての各委員の評価結果が報告され、その後判定のための合議が行われ、全員一致で、小高氏の学位申請を承認し、その評価は「優」とすることに決定した。

(以上)